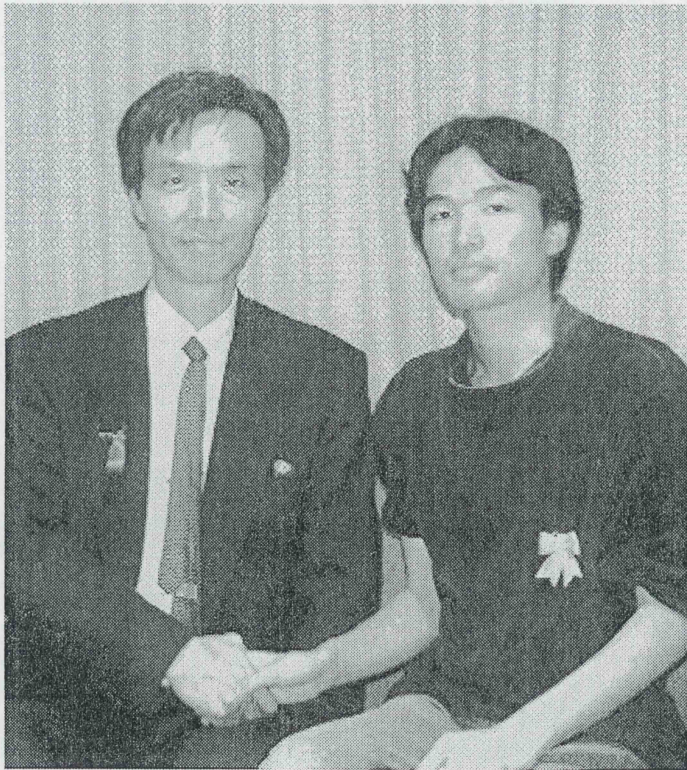


「蓮池薫さんとの40分間」

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の拉致被害者・蓮池薫さん（45）の母校中央大「八王子市東中野」は、学内誌「Hakumonちゅうおう」で拉致問題について異例の大型特集を掲載した。「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」代表の渡部一実さん（33）法学部四年Ⅱが、帰国直後に実現した蓮池さんとの面会の様子を紹介している。発行元の同大広報課は「中大生が蓮池さんを中心に拉致問題を考え、関心を共有する機会になれば」と話している。



10月16日、蓮池薫さん（左）と握手を交わす渡部さん。「救う会」のホームページから

中大学内誌で拉致問題特集

渡部さんが蓮池さんと会ったのは帰国二日目の十月十六日。「將軍様」という言葉が出てくることも覚悟していた」と振り返る。

その日の深夜、頭の中で覚えている限りをメモしたものが、今回の学内誌の原稿になった。

「蓮池薫さんとの40分間 彼が語り続けた全内容」と題された記事は、一問一答形式で面会の雰囲気をも再現している。

「ふだんはマーシャンばかりやってた」と、笑いながら学生時代を語った蓮池さんと、渡部さんらに缶ジュースを振る舞った（旧姓奥土） 柘木ささ子さんの様子…。

日本に戻ったばかりでまだ言葉を慎重に選んでいた蓮池夫妻だが、先日、北朝鮮に残してきた

学生の高まる関心

子どもについて「日本に会いたい」と明言。渡部さんは「勇気のある人」と、尊敬の念を抱く。

救う会の活動を始めたころはヒラを受け取る学生は少なかったが、今は学内の関心の高まりを肌で感じるといふ。

学内誌の特集では、ほかにも同大の学生記者による蓮池さんをめぐる拉致事件のルポや、学籍回復問題についての記事が掲載されている。

渡部さんは今月七日、蓮池さんの実家を訪ねビデオレターを作成する。蓮池さんのメッセージが込められたビデオレターは、同大で十二日に行われる兄透さんの講演会で上映される。

『救う会』の渡部さんが面会の代表として、146へ。

兄透さん、12日に講演会